



「軽金属溶接」創刊600号を迎えて

編集委員会

委員長 竹本 正

本号をもちまして、一般社団法人 軽金属溶接協会の機関誌「軽金属溶接」が創刊600号を迎えることができました。これもひとえに当協会を支えていただいた皆様と毎月の出版業務に関わった歴代の編集委員会委員ならびに事務担当の皆様のたゆまぬ努力とご支援のおかげであり深く感謝と御礼を申し上げます。

本誌は本会の前身である「軽金属溶接技術会」が1963年（昭和38年）1月に機関誌として創刊したのが始まりです。その後、会の名称は1975年10月14日に「社団法人 軽金属溶接構造協会」、2011年4月1日に「一般社団法人 軽金属溶接協会」と変更されましたが、機関誌の名称は一貫して「軽金属溶接」を堅持し、50年間1回も休むことなく継続して毎月発行され、協会創立50周年の節目に600号が刊行できたことはたいへん喜ばしいことであり、今一度、会員の皆様の熱意とご協力に謝意を表します。

この10月には創立50周年の記念行事が開催され、会場には創立初期から本会の発展に貢献されてきた方々も集い、協会の成長を祝福しました。

「軽金属溶接」は当協会の顔であり、協会の目的達成に貢献するための会員への重要な情報提供ツールです。解説、論文、技術報告、展望、行事等の各種記事に加えて会員紹介なども掲載され、その中身は時代を反映したものとなります。協会の機関誌は学会の論文誌とはその編集方針が異なり、会員のニーズに応えられる中身の充実が最重要と思われれます。その時々最新の技術、製品、機器などの情報をタイムリーに発信していくことが常に求められますので、編集委員会では最新の技術・製品等の紹介に腐心しています。現在、「軽金属溶接」の発行部数は1000部を下回っており、大きな学会と比較すると閲覧人数は少ないのですが、アルミニウムの溶接・接合に特化した専門誌なので、専門家の注目度は高くなります。このため、本誌掲載の論文等は材料一般を取り扱う材料関係者に配布される他学会誌と比較して、深く感心をもって読まれることとなりますので、編集委員会では当協会への投稿を積極的に募っているこの頃です。

軽金属溶接は専門家のための月刊誌であり、会員においては中身を興味深く、厳しい目で読んでいるはずなので（発行部数）×（感心度）的な指標をとれば、多くの部数を発行する他の学会誌に引けをとらない重み付けになると感じています。このために、編集委員会では今後ともいわゆる中身の濃い内容を企画し掲載して行く所存です。

さらに、当協会では多くの人々に見てもらえるように、軽金属溶接に掲載された論文に関しては、2012年3月号よりJ-STAGEに掲載して会員以外でも閲覧できるようにしています。アジア圏からのアクセスも多くあり、情報発信としてはいい成果がでていと感じられます。この点が考慮され、今後、論文の投稿数が増えることを願っています。機器、レーザ、FSW関連の技術進歩が緩やかになった現在、新たなアルミニウム技術の革新と進化により機関誌の充実を期待します。

機関誌創刊当時のアルミニウム需要は30万トン程度でしたが、現在ではその10倍を超えています。アルミニウム製品の製造に溶接・接合技術は不可欠であり、機関誌による技術・技能の発展への貢献がアルミニウム需要の拡大にも大きく寄与してきたといえましょう。リーマンショック以降、経済状況が芳しくない状況が続いており、どの企業も経費削減方針の下、研究費削減、学協会への参加見直しなどが常態化しており、多くの学協会は会員数や投稿数の減少に頭を悩ましているところです。加えて、インターネットやタブレット端末の普及と関連して活字離れが進んでおり、印刷媒体の発行部数が減っています。これからはインターネット版協会誌という形も含めて、迅速で使いやすい有益な情報発信についても考慮していく時期に来ているようです。

機関誌には今後とも会員皆様方からの論文、解説、トピックス等、タイムリーな内容の投稿などについて一層のご協力をいただきたく、編集と発行に関しましても引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。